

第11回 夏の教育セミナー

教育で日本の未来をつくる

概念理解を重視した深い学びへ

求められる教育課程 石井英真・京大准教授に聞く



学習指導要領の改訂に向けた中央教育審議会への諮問が、年内にも行われる見通しだ。資質・能力の育成のために「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を求めた学習指導要領をどのように見直すべきか。京都大学の石井英真准教授に聞いた。

地歴・公民

探究通じ歴史的事実の関連を理解

新教育課程に対応して出題科目の構成が変わる地理歴史・公民。共通テストでは、必修の「地理総合」「歴史総合」「公民」の組み合わせと、必修・選択の組み合わせの計6科目の中から最大2科目を選んで解答する。科目受験する場合は、選択できない組み合わせがあり、注意が必要になる。選択パターンは複数あるが、難関国立大学などでは必

新共通テスト 変更のポイント

- 地理総合、歴史総合、公民が出題科目に
■ 出題科目を従来の10科目から6科目に整理
■ 選択できない組み合わせもあり

変更点

履修の組み合わせ科目の利用を認めていない。地理歴史科の教員の中で関心が集まっているのが新設科目の「歴史総合」だ。現代の日本と世界の関わりなどを扱うが、これまでの「世界史A」「日本史A」の統合科目ではない。広い視野に立ち、国際社会で主体的に生きるために必要な「公民」としての資質・能力の育成を目指す。大学入試センターの示した問題作成方針によると、教科書で扱われていない資料の情報を授業で学んだ知識を関連付ける問題や、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察

「多層的な教室」の実現に向けて、個別最適な学びは教師の見取りと見極めが重要になる。ネットやAIの活用により、多様な学習スタイルを認める。形式的平等から公報ばかりではない。確かな知識に至るためには、調べ学習の活用が重要になる。GIGA端末の活用による「個別最適な学び」として、AIドリルや動画による知識習得の効率化を期待する見方もありますが、難しさもあるでしょう。学力の低い児童生徒のつまづきや意味不明の理解の困難さが背景にあり、さかのぼり地獄に陥る可能性もあります。学び合いながら分かっていく学びや、社会の課題につながる「真正な学び」と結びつけることが重要です。児童・生徒の学習進度に応じて、教育課程の柔軟化を認める方向も議論されました。先取り学習などは中高一貫校などで既に行われている。学習内容の前後関係が崩れることで、学習の深まりが阻害される。前記の通り、個別最適な学びは、教師が授業の主導権を握らなければならない。授業のオーナリシツ(所有権)がないことが、学びの深まりを阻害している可能性も指摘されています。大量の内容を教え込むのではなく、内容を大きくくりかえし、教師の裁量を高めていく。Less is more(少なく深く学ぶ)の考え方を重視すべきです。前に教科書の問題を指し示しながら、教師が加減しないよう注意が必要。修得主義へのシフトも勉強をこなしていくイメージだと、学校現場もそうしたイメージを持って臨むことが大切だろうと思います。

クロスロード 交差する視点 想像と実践、創造力に昇華を

鹿野利春 京都精華大学教授 デジタル人材共創連盟代表理事

これからの時代は、肉体的労働はロボットが、思考・判断・表現のかなりの部分は人工知能が代替するようになる。人工知能を搭載したロボットも普通に使われるようになってきた人間には、それらを使って世の中に価値あるものを創り続けることが求められるだろう。また、技術の進歩は止まることがない。生成AIが普及し始めた頃のように、数カ月といった短いスパンで人間に求められる力は変化し続けていく。その中で、必要とされるのは単純な知識ではなく、ルーティン化された技能でもない。問題を発見する力、チームを形成する力、解決に向けて進む力、将来を見通す力といった、知恵を含む総合的な人間力になるのではないだろうか。だが、そういったものは、どうやって育てるか。知識を詰め込む教育では実現できないことは明らかであり、想像力を育む教育だけでも不十分である。一つの希望は、総合的な学習(探究)の時間の活用にある。各教科等で身に付けた力を総合して、問題を発見・解決する過程で学ぶことだ。想像力と実践力を「創造力」に昇華することである。社会人は大部分、問題の発見・解決といった舞台で人間の持つ総合力で勝負していく。教育の現場としては、必要な資質・能力が教科等の学習で育つように、それが総合的な学習(探究)の時間で、総合的な人間力として結実するように学校全体でカリキュラム・マネジメントを推進することが必要である。そのためには、ICTの活用や個別最適化、協働的学習といったレベルではなく、総合的な人間力をどうやって育てていくかという、一段上の視点から教育全体を見直すことを行わなければならない。その際は「あることでなくても、誰もが身に覚えがある」という平和で持続可能な世界を形成することといった視点も大切である。教育には、このような視点と5年後、10年後の社会を見据えた目標の設定が重要である。

※「第11回 夏の教育セミナー」に先駆けて高校教育や大学入試に関する情報を掲載します。

全国の先生方と共に、高校教育の未来を考えませんか？

第11回 夏の教育セミナー 2024年実施

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校) 後援：文部科学省、各都道府県教育委員会 ほか (申請中・予定)

明日から使える「生活指導のヒント」「授業のヒント」が満載！

8/1 東京 会場

ベルサール新宿グランド

イベントホール：東京都新宿区西新宿8-17-3 住友不動産新宿グランドタワー1F

高等学校の先生対象

参加無料

8/5 大阪 会場

スイスホテル南海大阪

大阪府大阪市中央区難波5-1-60

8/8 8月31日

オンライン配信

順次公開予定

お申し込みは WEBで! 好評受付中!



夏の教育セミナー 検索

最新情報は順次公開 www.summer-seminar.com

お問い合わせ 夏の教育セミナー事務局 summer-seminar@nagasebros.com

テーマを新たに さらに充実!



早期申込 特典

早期にお申し込みいただいた先生限定で、東進の共通テスト対策講座を視聴いただけます。ぜひお早めにお申し込みください!

A 2025年 共通テスト 先取り体験講座 (第1講・全体概観) 正司 光範 講師

新課程の共通テストにおいて科目横断的に求められる「探究」の力について、とことんお話しします

7/12(金)までの申込

B 共通テスト情報Iを サキヨミ! 完全攻略メソッド 渡辺 さき 講師

新たに始まる共通テスト情報Iの概要を 試作問題や東進模試結果を元に解説

7/31(水)までの申込

※1講座は約30分です。